

漢法苞徳塾資料	No. 092
区分	治療・配穴
タイトル	剛柔夫妻配穴
著者	八木素萌
作成日	1994.03

甲	足少陽胆	与己合	胆引気行	足太陰脾	原寅
乙	足厥陰肝	与庚合	肝引血行	手陽明大腸	
丙	手太陽小腸	与辛合	小腸引気出行	手太陰肺	原子
丁	手少陰心	与壬合	心引血行	足太陽膀胱	
戊	足陽明胃	与癸合	胃引気出行	足少陰腎	原戌
己	足太陰脾	与甲合	脾引血行	足少陽胆	
庚	手陽明大腸	与乙合	大腸引気出行	足厥陰肝	原申
辛	手太陰肺	与丙合	肺引血出行	手太陽小腸	
壬	足太陽膀胱	与丁合	膀胱引気出行	手少陰心	原午
癸	足少陰腎	与戊合	腎引血行	足陽明胃	

竇漢卿『鍼灸四書』より

【a】「剛柔配穴」の問題は、『難経』を出発点としているが、

『素問』六節蔵象論第9の「五気更ゴモ立チテ、各々勝ツ所有リ盛虚ノ変ハ此レ其ノ常ナリ。……春ハ長夏ニ勝チ・長夏ハ冬ニ勝チ・冬ハ夏ニ勝チ・夏ハ秋ニ勝チ・秋ハ春ニ勝ツ、所謂五行ハ時ノ勝ヲ得ルナリ。各々気ヲ以ッテ其ノ蔵ヲ命トシテ其ノ至ルヲ求ムナリ。……皆帰ニテ春ニ始マル。未ダ至ラズシテ至ル此レヲ大過トイウ、則ワチ薄キ所勝タズシテ勝ツ所ニ乗ズナリ、命ジテ気淫ト日ウ。……至ルベクシテ至ラザルヲ此レ不及ト謂ウ、則ワチ勝ツ所妄行シテ生ム所病ヲ受ケ、勝タザル所之レニ薄マルナリ、命ジテ気迫ト日ウ。」の自然の変化が五臓の消息に深く関わっているという認識や、

蔵気法時論第22の「夫レ邪気ノ身ニ客マルヤ勝ツモノヲ以ッテ加ワリ、其ノ生ムトコロニ至ッテ愈エ、其ノ勝タザルトコロニ至リテ甚ダシク、其ノ生ム所ニ至リテ持シ、自ラ其ノ位ヲ得テ起ツ。必ズ先ニ五臓ノ脈ヲ定メテ 乃ワチ間甚ノ時ト死生ノ期ヲ言ウベキナリ。」という認識が土台に在るのである。

五臓の相互関係にも臓腑の相互関係にも陰経絡と陽経絡の井榮兪経合の相互関係にも、剛柔の関係が成立している事を認識するに至るのである。この点にも三才思想が貫かれて、「天地の運氣=宇宙の運氣」に「人身の運氣=小宇宙の運氣」が呼応しているのである。

## 【b】十干・十二支と陰陽・五行との関連

## 1. 十干の五行

五行	木	火	土	金	水	
陽干	甲	丙	戊	庚	壬	運氣は有余・故に大過の運氣
陰干	乙	丁	己	辛	癸	運氣は衰亡・故に不及の運氣

## 2. 十二支の陰陽・五行・主客加臨

火	土	相火	金	水	木	厥陰	少陰	少陽	太陰	陽明	太陽
子	丑	寅	卯	辰	巳	風木	君火	相火	濕土	燥金	寒水
						初	二	三	四	五	終
午	未	申	酉	戌	亥	濕土	相火	燥金	寒水	風木	君火
終	初	二	三	四	五	太陰	少陽	陽明	太陽	厥陰	少陰

## 3. 時間による地支の補穴

子 23~01	卯 05~07	辰 07~09	未 13~15	申 15~17	亥 21~23	→陽(陽経陽時)
丑 01~03	寅 03~05	巳 09~11	午 11~13	酉 17~19	戌 19~21	→陰(陰経陰時)
井穴	滎穴	兪穴	経穴	合穴	原穴	

## 4. 時間における臓腑経絡の旺気

子 23~01	寅 03~05	辰 07~09	午 11~13	申 15~17	戌 19~21
胆	肺	胃	心	膀胱	心包
丑 01~03	卯 05~07	巳 09~11	未 13~15	酉 17~19	亥 21~23
肝	大腸	脾	小腸	腎	三焦

## 5. 時間による天干の補の経脈

甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸
胆	肝	小腸	心	胃	脾	大腸	肺	膀胱 三焦	腎 心包

## 6. 干支の配合の関係

数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
天干	甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸	甲	乙	奇数は陽
地支	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	偶数は陰

【c】大過不及論の問題では、次のような関係が成立している。

1. 大過の場合

木〈風・肝〉が有余（＝大過）である場合には、金〈燥・寒・肺〉を侮り、そして土〈湿・飲食労倦・脾〉に乗ずる。

火が有余、水を侮り、金に乗ず

土が有余、木を侮り、水に乗ず

金が有余、火を侮り、木に乗ず

水が有余、土を侮り、火に乗ず

2. 不及の場合

木が不足（＝不及）である場合には、土を制剋できない。

故に土は妄行し、水は土の妄剋を受ける為に病み、金は木に強く迫る。

火が不足（＝不及）である場合には、金を制剋できない。

故に金は妄行し、木は金の妄剋を受ける為に病み、水は火に強く迫る。

土が不足（＝不及）である場合には、水を制剋できない。

故に水は妄行し、火は水の妄剋を受ける為に病み、木は土に強く迫る。

金が不足（＝不及）である場合には、木を制剋できない。

故に木は妄行し、土は木の妄剋を受ける為に病み、火は金に強く迫る。

水が不足（＝不及）である場合には、火を制剋できない。

故に火は妄行し、金は火の妄剋を受ける為に病み、土は水に強く迫る。

◎自然と人との交流と呼応の現象から（三才思想）『素問』「六節蔵象論第9」の大過不不及の記述は、「蔵気法時論第22」の「夫レ邪氣ノ身ニ客マルヤ勝ツモノヲ以ッテ加ワリ、其ノ生ムトコロニ至ッテ愈エ、其ノ勝タザルトコロニ至リテ甚ダシク、其ノ生ム所ニ至リテ持シ、自ラ其ノ位ヲ得テ起ツ。必ズ先ニ五臓ノ脈ヲ定メテ乃ワチ間甚ノ時ト死生ノ期ヲ言ウベキナリ。」という認識との関連において把握し理解すべきものであろう。

つまり五臓や経脈やの相互関係にも貫徹している、と理解する必要があるのである。これは数経・数臓にわたる変動を解析するときに、方法論として有用であろう。また、75難の運用問題としても、検討に値するものと思われる。

甲己は土運	甲子・甲戌・甲申・甲午・甲辰・甲寅	→ 歳まわりは土運の大過の年
	己巳・己卯・己丑・己亥・己酉・己未	→ 歳まわりは土運の不及の年
乙庚は金運	乙子・乙戌・乙申・乙午・乙辰・乙寅	→ 歳まわりは金運の大過の年
	庚巳・庚卯・庚丑・庚亥・庚酉・庚未	→ 歳まわりは金運の不及の年
丙辛は水運	丙子・丙戌・丙申・丙午・丙辰・丙寅	→ 歳まわりは水運の大過の年
	辛巳・辛卯・辛丑・辛亥・辛酉・辛未	→ 歳まわりは水運の不及の年
丁壬は木運	丁子・丁戌・丁申・丁午・丁辰・丁寅	→ 歳まわりは木運の大過の年
	壬巳・壬卯・壬丑・壬亥・壬酉・壬未	→ 歳まわりは木運の不及の年
戊癸は火運	戊子・戊戌・戊申・戊午・戊辰・戊寅	→ 歳まわりは火運の大過の年
	癸巳・癸卯・癸丑・癸亥・癸酉・癸未	→ 歳まわりは火運の不及の年

☆『難経正義』葉霖の「33 難」註に

「五行化合者・甲己化土・乙庚化金・丙辛化水・丁壬化木・戊癸化火也・化合之義・未有明其所以然者…」

「…甲木克己土為妻・生庚金為一變・乙庚次甲己・故乙庚為金運・庚金克乙木・生丙火・丙火克辛金・生壬水・自乙庚之金 壬水 凡兩變。丙辛次乙庚 故丙辛為水運。丙火克辛金・生壬水・壬水克丁火・生戊土・戊土克癸水・生甲木・自丙辛之水生甲木・凡三變。丁壬次丙辛・故丁壬為水運・壬水克丁火・生戊土・戊土克癸水・生甲木・甲木克己土・生庚金・庚金克乙木・生丙火・自丁壬之木生丙火・凡四變。戊癸次丁壬・故戊癸為火運。戊土克癸水・生甲木・甲木克己土・生庚金・庚金克乙木・生丙火・丙火克辛金・生壬水・壬水克丁火・生戊土・自戊癸之火生戊土・凡五變。甲己又次戊癸・故甲己復為土運。于是戊己会于中央也・此說皆尽五行生克之妙・然陰陽之理・以和為治・夫婦之道・非脇可成・…」

とある。

以上を臨床配経配穴論に敷衍することが可能であるならば、

甲木（胆）は己土（脾）を克して妻として、庚金（大腸）を生む。

甲→己→庚→（化土）

庚金（大腸）は乙木（肝）を克して妻として、丙火（小腸）を生む。

庚→乙→丙→（化金）

丙火（小腸）は辛金（肺）を克して妻として、壬水（膀胱）を生む。

丙→辛→壬→（化水）

壬水（膀胱）は丁火（心）を克して妻として、戊土（胃）を生む。

壬→丁→戊→（化木）

戊土（胃）は癸水（腎）を克して妻として、甲木（胆）を生む。

戊→癸→甲→（化火）

のように、非常に錯綜した相互連関によって（化）の五行が完成している、この点を考慮して、剛柔の運用を行なう必要がある。錯綜した相互連関の筋道若しくは筋書きに見えている法則性を用いるので無くては、臨床的に所期の効果は期待できまい。

◎剛柔の配穴は陰陽論のなかでの剛柔論が、臓腑・経絡および要穴の間の剛柔夫妻的關係の觀察を形成させ、また、結び付いた結果と、臨床的実践が見いだしてきた用穴の検討が作り出すものである。方法論としての土台は『鍼灸四書』（竇漢卿）がほぼ完成の域に仕上げたものと言える。上述のように子午の研究と結び付いているものであり、運氣論の大過不及とも深く関わっている。この点に運用上のヒントがあるものと思われる。

## 剛柔夫妻配穴補遺

十二経原穴		
手陽明大腸	合谷	庚
手少陰心	通里	丁
手太陰肺	列缺	辛
手太陽小腸	腕骨	丙
手厥陰心包	内関	己
足厥陰肝	中都	乙
手少陽三焦	陽池	戊
足少陽胆	丘墟	甲
足太陰脾	公孫	己
足太陽膀胱	京骨	壬
足陽明胃	衝陽	戊
足少陰腎	水泉	癸

夫婦配合原穴				
大腸	金	合谷	庚	合
肝	木	中都	乙	
心	火	通里	丁	合
膀胱	水	京骨	壬	
心包		内関	己	合
三焦		陽池	戊	
小腸	火	腕骨	丙	合
肺	金	列缺	辛	
胆	木	丘墟	甲	合
脾	土	公孫	己	
胃	土	衝陽	戊	合
腎	水	水泉	癸	

扁鵲神応鍼灸玉龍経 元：王国瑞より

	臍輪
輪	歪みがある
郭	締っている
線	だれている
悸	上下左右斜

	臍索	
伸	上下左右斜	縮
弱		緊
濡		燥
絶		着

骨盤位	悸
前後方向	妖
左右方向	夭
	弱
	濡

掣	上下左右斜	掣	上下左右斜	噎	足踝幅	左	右	軟
脹		脹		腫				絶
触	熱 寒	悸	上下左右斜	悴	緊張	堅実		断絶
感	湿 燥	張		堅		潤強固ひく		
						燥精力老人		